

平成 30 年度 高齢者支え合いコミュニティ支援事業団体

組織名	榊形団地自治会	代 表	会長 みやもと ゆきお 宮本幸夫
地域（市町村）	県北（本宮市）	加入世帯数 （所属人数）	133 世帯（391 名）

（１）町内会の特徴

昭和 40～50 年代に造成・販売された団地であり、現在では高齢化が進み、一人暮らし世帯も増加している。少子化に加えて、部活やスポ少活動、勤務体系の変化や定年後も働く高齢者の増加などにより、土日も忙しい世帯がふえた。

かつては行われていた自治会独自の行事も縮小傾向にあり、それにより交流の機会も減ってきている。

（２）事業実施背景

そのため、行政では手の届かない範囲での地域独自の支え合いや共助の重要性について自治会役員等も強く認識することとなった。

長年、地域で暮らしてきた人たちにとって、地域同士での支え合いや「共助」の大切さを改めて感じ、自治会活動を少しずつ増やしていきたいと考え始めた。

（３）本年度事業実施内容と今後の方向性

地域の集会所での「榊形ふれあいサロン」は、週 1 回百歳体操の実施や茶話会をとおしてお互いの近況を話しあい楽しい時間を共有する場となっている。また、サロンで会話の中から「ひとり暮らしの〇〇さんの家では～に困っている」に対して、自治会有志による支援も今年度から始まり、ひとり暮らし高齢者宅の高枝剪定や電球交換などを行った。その有志の名も「世話焼き隊（仮）」。こちらもこれからどんどん活動を広げていきたいとのことである。

<ともに助けることを大切にしながら>

この夏、地域の小学生だけで行っていた「夏休み朝のラジオ体操」に地区の住民も参加し、お互いの顔を覚えて世代間交流や地域の防犯力の向上へとつながるいい機会となった。また、団地内には浪江町の復興住宅があり、その住民にも上記の活動に参加してもらうことで交流を図る場となっている。

地域独自での支え合いは行政の手が届きづらい部分もあり、それをどうしていくか榊形団地自治会は進め始めている。「自助・互助・共助・公助」の部分大切にしながら、自治会として活動していきたいとのことである。

- ① 会長の宮本幸夫さんは「自助・互助・共助・公助」の中でも、“たがいに助け合う（共助）”を大切に伸ばしていきたい」と話す。



- ② 「榊形ふれあいサロン」、運動後の茶話会の様子。取材日は、今後やってみたい活動について話し合いを行っていた。



- ③ 「榊形子ども秋祭り」。榊形団地内のみで行うミニ秋祭りは、長年続いている。



- ④ あいにくの雨となった 30 年度のミニ秋祭りでは、室内卓球大会やカルタ大会も行われ、年齢関係なく楽しんだ。



- ⑤ 「世話焼き隊（仮）」の皆さん。
集会所の草刈りから始まり、一人暮らし高齢者の支援など、活動範囲は幅広く！

